

■熊本駅白川口駅前広場について

白川口駅前広場について、県からの事業引継ぎ後、各交通施設の配置計画を見直すとともに、JR開発構想の具体化、熊本地震の発生などより、大きく情勢が変化したことを踏まえ、駅前広場の新たなコンセプトをもとに、昨年度末に駅前広場の空間的な機能配置の方針（ゾーニング）を策定した。

その後、バス及びタクシー事業者、JR九州、県警等と協議を重ね、この度、駅前広場のレイアウト案を策定したものの。

■新たなコンセプト

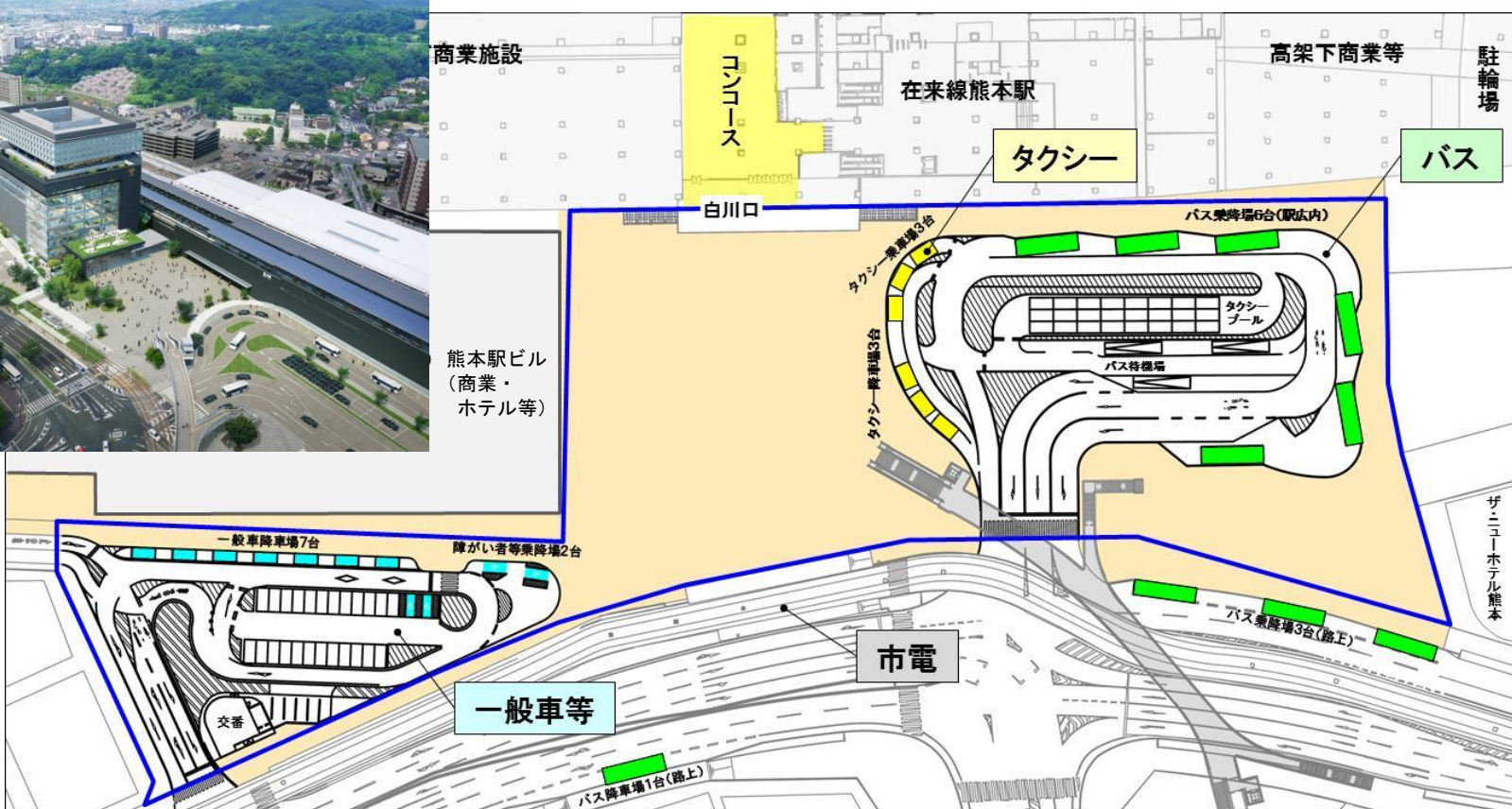
- 機能的かつ開放的な空間** ⇒ サブターミナル、交通広場等の機能を分担するとともに、出来る限り広場空間を確保し、賑わい・交流を演出
- 災害時の広場機能の確保** ⇒ 避難場所、復旧・支援活動の拠点として活用
- 連続的で快適な動線** ⇒ 各交通機関の乗降場まで雨に濡れない、明るい動線を確保
- 駅舎、駅ビルとの調和** ⇒ 景観的調和、駅ビル・駅舎に対する視点場への配慮
- くまもとらしさの表現** ⇒ 県産木材の配置、水と緑による「くまもとらしさ」の演出

■イメージパース（駅ビル・駅広）



※今後の設計及び関係機関等との協議により、変更する場合があります。

■白川口駅前広場レイアウト（案）



■現状の課題

- バス乗降場の数が不足している**
⇒ バス乗降場が不足しているため、ピーク時には数台が連なり、周辺交通に影響を及ぼしており、またバス待機スペースもない
- バス乗降場が分散している**
⇒ バス乗降場が3箇所に分散していることに加え、それぞれの乗降場に路線バスや都市間バスが混在しており、利用者にとって分かりづらい

■サブターミナルについて

これまで、各バス事業者等と市にてワーキングを開催し、サブターミナルの施設配置等について協議を行い、今回のレイアウト案となったもの。

- 乗降10バース（路上を含む）、待機3バースを設置（タクシー：乗車3バース、降車3バース、プール24バース）
- バス乗降場を方面別に集約化
- バス、JR、市電等との乗り換え動線を確保
- シェルター（上屋）やベンチなどで待合環境を向上

⇒今後も乗場配置や時刻表、サイン、ベンチなどについて更に協議を行い、より利便性の高いサブターミナルを形成する。

■整備スケジュール（案）

		連立事業完成		駅広供用開始	駅ビル開業予定 (H33春)	
		H28	H29	H30	H31	H32
連立	高架工事【熊本駅部】	鹿兒島本線下り 豊肥本線		駅舎外壁工事		
街路	白川口駅前広場	設計		工事		
開発	JR開発	計画	設計	工事		